

午後の 談話室

第24回

国際教養学部 言語文化学科

金秀晶 教授

Kim SOOJUNG

ソウル大学教育学部卒業、同大学院国語教育学修士・博士課程修了。教育学博士。外国人のための韓国語教育を専門とする。2007年より本学准教授、2015年より現職。

趣味:

旅行先でのファイナリー飲み歩き。

憧れの旅先:

バルセロナ(スペイン)、サルディーニャ(イタリア)。

今までで最も感動したこと:

民主化の体験(1980年代はじめ、韓国では民主化運動が弾圧され、軍政が敷かれた。これに対して、学生を中心とした反政府運動・民主化闘争が拡大。87年に軍事政権は「民主化宣言」を発表し、言論・集会・結社の自由、大統領直接選挙などが実現された)。



現在使用している
韓国語のテキスト

言葉を学ぶ愉しみ

ネット動画で韓国語？

韓国語教育が専門の金先生が初めて日本を訪れた頃、サッカーW杯(2002年)が日韓で共同開催され、テレビでは『冬のソナタ』(03年)が人気に。『韓流』が大きなブームになり、韓国語に興味を持つ人も増え

ていたが、韓国語コンテンツは今ほど手近にあるものではなかった。

「現在はYouTubeやNetflixなどで韓国語の動画がたくさん見られるようになりました。K-POPのファンも多し、最近の学生は、はじめから発音がすごく上手です。インターネットの影響はとても大きいですね」

外国語を身につける「ツツの一つは、その言語にいつも触れられる環境をつくることだろう。金先生は気軽に楽しめるネット動画のメリットを認めつつ、言語モデル(手本)としての危うさも指摘する。

「メイク動画などは特に人気で、見た目も話し方も可愛らしく、真似したくなるのも分かります。でも動画としての面白さが優先されて、くせのある発音

や、文法的には正しくない、くだけた表現が使われることも多いんです。そうした動画ばかりを見て、内容が理解できるから『自分は韓国語ができる』と思い込んでしまうのは少し危険です。まずは正しい文法・表現を学んでもらいたいなと思っています」

なぜ外国語を学ぶのだろう

金先生のゼミでは、韓国語の方言に興味を持つ学生も増えていくという。

「韓国語を学ぶ中で、観光地に行くと有名なものを食べて…というだけではない、より広い興味・意識を持ってくれたんだと思います。私自身は方言に対して特に関心はありませんでしたから、その面白さは彼らに教わりました」

韓国の言葉や文化に触れる機会是他にもある。フィリピンなどでの英語の語学研修

に参加した学生たちは、現地で韓国の学生と仲良くなることも多いという。英語と韓国語で「コミュニケーションを深め、研修後にお互いの国を訪ねたりもするのだから」。

「言語とは、その言葉を使う人たちの文化も含んでいるものです。言葉を学び、友だちをつくり、交流し、お互いを理解することが大事だと思います。『人生100年』といわれますが、語学の資格を取得しても、それはごく短い期間に使われるもの。長い人生の中では、言語は武器というよりも、いろんな国や地域の人と付き合うためのツールになるのではないのでしょうか」

文法や単語が似ていることから、韓国語は日本語の話者が習得しやすい言語だという。飛行機で約2時間半。日帰りもできるほど近い隣の国の言葉は、他の言語を学ぶ愉しみを味わう出発点にもなりそうだ。

My Seminar

金先生のゼミで取り組んでいるものの一つが、韓国語の動画制作です。ゼミの学生たちはスクリプト(台本)を書き、自ら出演・撮影、動画の編集までこなします。

今年の作品は『「おしゃべり」の韓国語を学ぶ』がテーマ。韓国語版『赤毛のアン』の制作に挑戦しました。動画制作はグループで協力して取り組む力や、発信する力を養う機会になっているとのこと。さらに、卒業論文執筆に向け韓国語のキーボードで原稿を書く練習にもなるのだとか。

また今年度は動画以外にも、夏季休暇中の旅行の様子を紹介し、写真とともにまとめた冊子を制作。韓国の言葉とその文化を学びながら、発信する取り組みを広げています。